A&M MODEL C101 管球式コントロールアンプ

簡易型キット¥125,000
完全キット¥98,000



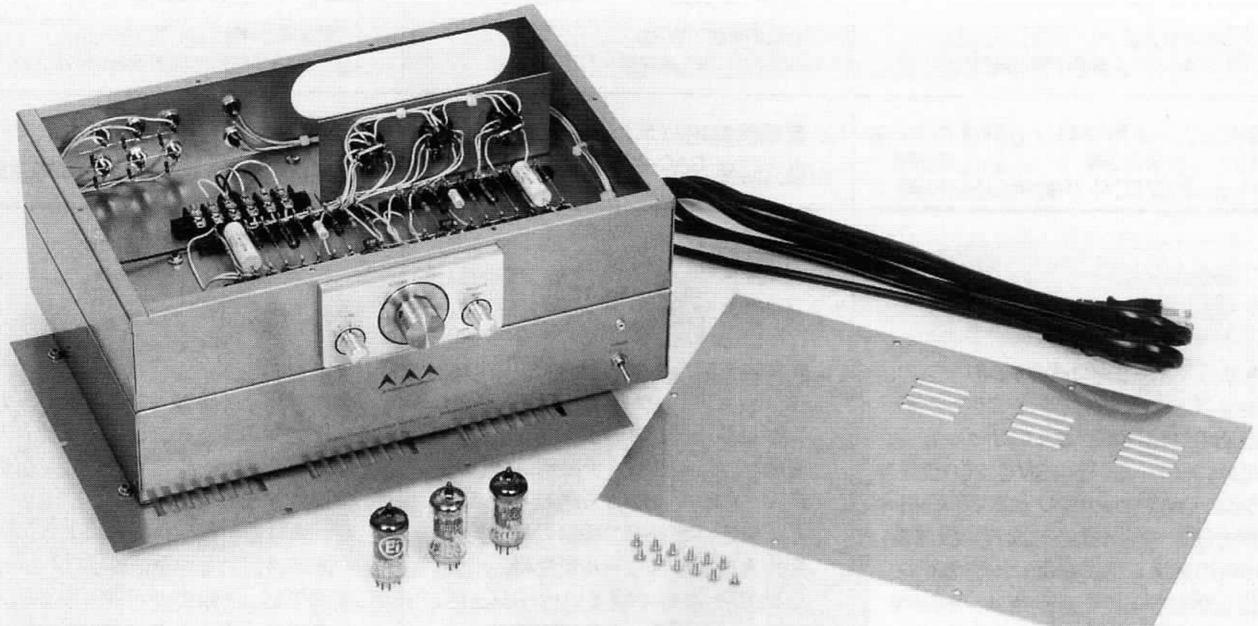
●主な仕様
入力：ライン(4)
出力：プリアウト(1)
出力電圧：定格2V，最大15V
出力インピーダンス：200Ω
入力感度：100mV
周波数特性：5Hz～100kHz
SN比：90dB
使用真空管：ECC83(1)，ECC82(2)
寸法・重量：300W×135H×200Dmm・5kg
●問い合わせ・資料請求先
エイ・アンド・エム(株) MJ7係
〒569-0823 大阪府高槻市芝生町1-2-23
TEL 0726-78-0064

「エアータイト」ブランドで数々の管球アンプを世に送り出してきたA&Mから，'98年4月号で紹介したKT88シングルアンプキットM-101に続き，最新作として管球式コントロールアンプキットのC101が発表された．

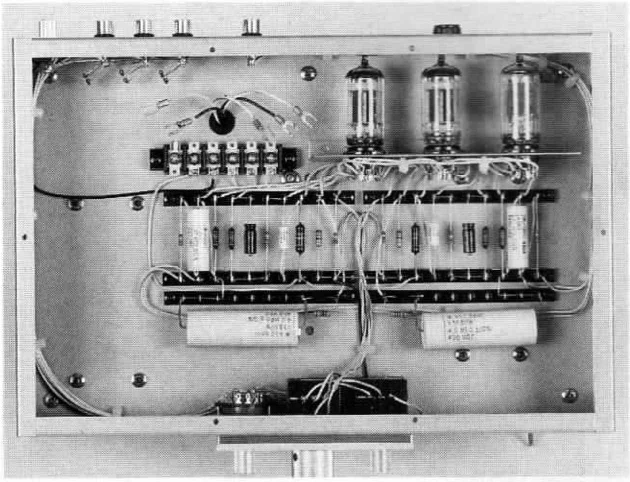
エイ・アンド・エム(株)は，ラックスに永年在籍していた技術者によって1986年に設立されたメーカーであり，早くから海外に目を向け，今では世界中のオーディオマニアに賞賛を持って支持されている．とくに筆者にとって，リモコン式アッテネーターボックスATL-10Aのデザインのユニークさとアイデアは記憶に新しいところだ．

今回のコントロールアンプには，配線済みの簡易型キットとチャレンジ型完全キットの2種類がある．前者は電源部からの5本の線(色別)を増幅部のターミナルにネジどめするだけで完成する．ドライバー1本で1～2分の作業だが，結線を間違えると悲惨な事態になりかねないので注意が必要だ．後者は機構部品は取り付け済みだが，通常のキットと同様に配線とCR類の取り付けを行う内容である．

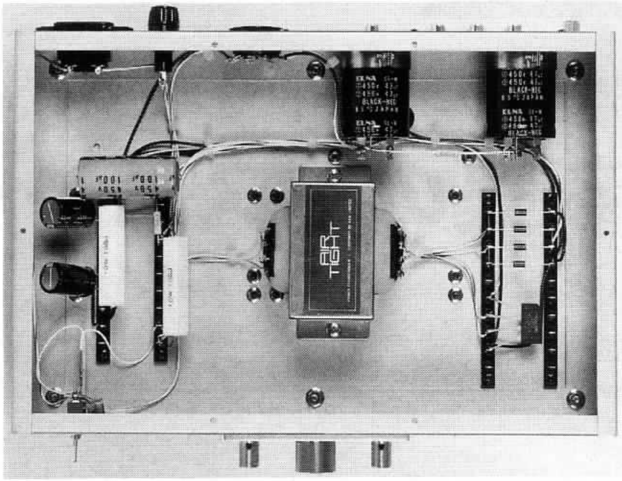
キットを特徴づけている点はユニークな構造にある．電源部と増幅部を上下に分離した2階建てケースを採用しているが，低レベルの信号を扱うコントロールアンプにおいては理に適った構造と思う．こ



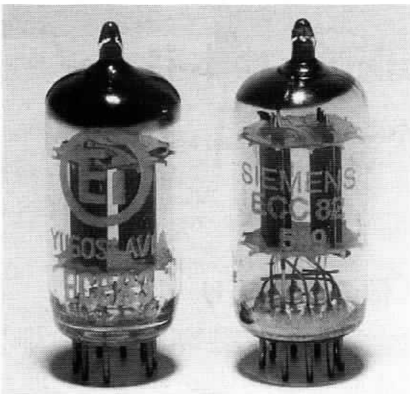
簡易型キットの全容．購入時にほぼ完成している状態．作業は電源からのYラグ付き配線をターミナルにネジどめするだけで完成．完全キットは入出力端子，ボリューム，セレクターSW，電源トランス，配線のモールド端子などの機構部品が取り付け済みで，ワイヤリングとCRのハンダ付けを行う



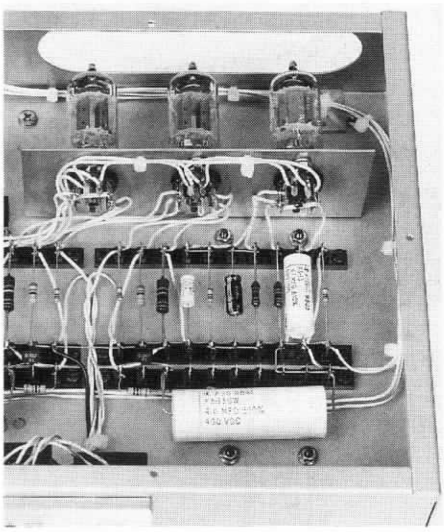
ケースの上半分が増幅部．簡易キットは左上の電源ライン（B電源，ヒーター電源）をネジどめする作業だけ．完全キットでは，入出力配線，ソケット配線，CRの取り付けなどを行うが，スペース的にゆったりしているので作業は容易だろう



ケース下半分を占める電源部．電源トランスと整流ダイオード，B電源フィルターとデカップリング回路，ヒーター直流点火用フィルターをここに収め，増幅部と隔離している



ユーゴEi製のECC83が１本とシーメンス（ユーゴ製）ECC82が２本付属



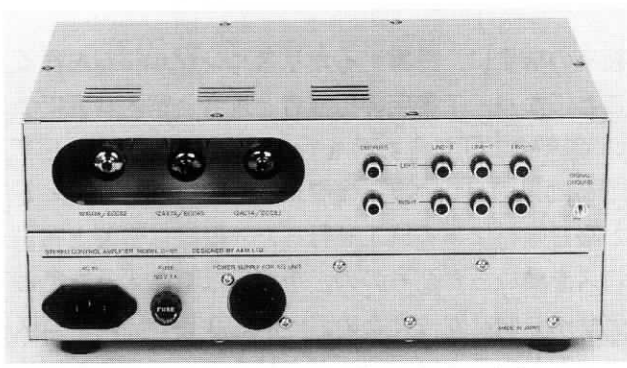
増幅部の抵抗は多摩のEF型を含む金属皮膜型，フィルムコンはASCのX363を使用．NFBの位相補正には双信のSEコンが投入されている

れは電源部の増幅部への干渉，ノイズ，ハムの低減に役立つと同時に，デザイン的にも一役買っている．

増幅部は**12AX7A/ECC83**の1/2ユニットに**12AU7A/ECC82**のSRPP回路を加えた，NFB付きの２段増幅回路である．SRPPは出力電圧が大きく，出力インピーダンスも低く広帯域にわたり安定したNFBが施せるので，余分なゲインを減らすとともに十分な低歪み特性が得られる．電源部はB電圧回路，ヒーター直流点火回路ともダイオードによるブリッジ整流方式である．

16ページにわたるマニュアルには，パーツリスト，配線上の注意と工程，４枚の実体配線図と回路図が示されている．ケース内部も余裕があるので，初心者でも完全キットの製作は容易だろう．解説文は日本語と英語が併記されており，前述のように世界をマーケットにした姿勢がここにも感じられる．

フロント部の高級感あるパネルは，同社流のデザイン感覚が反映され，先の**KT88**シングルとのマッチングも十分考えられている．さらにフォノイコライザー給電用の電源コネクターも装備されているので，イコライザーアンプの早期発表を待ち望むのは筆者ばかりではないだろう．



背面パネルの構成．真空管は窓から着脱が可能．今後ラインアップに加わるフォノEQ用の電源供給オクタルソケットも装備している

ハイエンドマニア用の高級プリ／パワーアンプから初心者向きのキットまで，A&Mの「音を出す測定器ではなく，音楽を楽しむアンプ」というポリシーは見事に貫かれている．　　　　（柳沢正史）